

男性用品店

「おしゃれ予備軍」を巧みに、その気にさせる



クオミスト
●所在地/東京都千代田区丸の内1-5-1新丸の内ビルディングB03-6269-0111 ●営業時間/11時~21時(日曜・祝日は20時)
●不定休 ●売り場面積/84㎡ ●取扱商品/化粧品、雑貨など このほか上野に2号店がある

◎右手前が雑貨、左に菓子を陳列。奥に化粧品とサロンがある



◎独ヘル社の飛行機模型上段左はミントタブレット「ヒントミント」。尻ポケットに入れやすいようケースがカーブしている



おもちゃや小物、時計で店の奥へと引き込む

来店客は、店の右側のエントランスから店内へ。すぐ右手には飛行機模型やミニカーなどを陳列し、あたかも雑貨店と思わせて引き込む。名刺入れや小銭入れなどの革小物、その隣は消臭下着、その向かいには文具が並び、さらにはインテリア家電と、変化に富んだ並びで客足を店の奥へと誘う。



◎機能美が人気のコーヒーメーカー「ネスプレッソ」 ◎時計は手ごろな価格でデザイン性の高いものが並び



消臭下着。Vが深くワイシャツの第2ボタンを開けても見えない

男性の美容関連市場が成長分野として注目を集めている。しかし、美容に興味があっても、いざ実践となると、気が引けるのが実情だ。そんなおしゃれ予備軍ともいえる男性の心を捉えて、話題になっている店がある。今年4月、東京駅前に開業した新丸の内ビルディング内にある男性向け化粧雑貨専門店クオミストは、ブラザスタイル(旧ソニーブランド)が手がけた初の男性向け兼売、売上高は予想の10%で推移中。男をオシャレに引き込むカラクリを探ろうと、業界関係者の視察が絶えない。

店の入り口でまず目に飛び込んでくるのは、飛行機やミニカーなどのおもちゃ、向かい側にはカラフルな輸入菓子、少し進むとドイツ製の文具、その先にはスタイリッシュなエスプレッソマシン……。思わず手に取ってみたいくなるような雑貨が次々に現れ、ついつい店内に引き込まれてしまう。ここに並べられた商品は、種々雑多でありながら一つの方向性を持つ。それはすべてが、語るに足るモノであるということ。「商品の横に太きめのショーカードを設置し、ブランドストーリーや素材機能、受賞歴などを記した(ブラザスタイル)。ウチク好きな男性の心をそそる展開だ。」

カードを渡したり、商品を手に取ったりしながら、店内をぐるり歩くと自然に化粧品のコーナーへ。そうなるように動線が仕組まれている。「雑貨と化粧品が混在しているから、化粧品に抵抗がある人でも取りやすい。こうした店は今まで伊勢丹メンズ館だけだった(商い創造研究所の松本大地社長)。と、業界の評価は高い。」

全商品約2000種類のうち化粧品が4割を占め、コンビニードラッグストアでは手に入らないブランドがずらりと並び、スキンケア製品のコーナーでは、専用の機械で肌診断から肌質豊富なパリエーションのなかから肌質に合った製品をアドバイスする。「自分

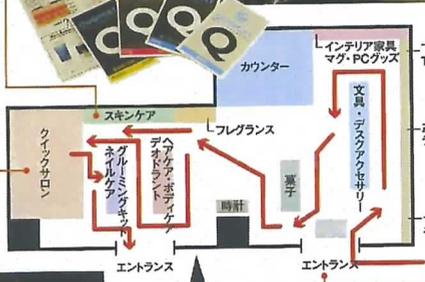
Rivals Wonder Why



「ウチク」「提案」で徐々に気づかせる

スキンケアやデオドラントなどの化粧品にも雑貨と同様に、歴史や機能などが書き込まれたハガキ大のショーカードが添えられている。男性の「ウチク好き」な習性を利用して、商品に興味を持ってもらう。スキンケア商品のコーナーでは肌診断を実施。肌タイプに合った化粧品を選ぶことを提案して、興味を持たせる。

◎国内外の人気スキンケア商品が並び ◎洗顔や眉カットの方法などを解説した無料配布の小冊子は名刺入れに入るサイズ



◎店頭では随時肌チェックが受けられる(左)(右)フランスの海洋深層水から作った入浴剤。人間に必要なすべてのミネラルを肌に直接吸収できる」といった説明が付く

10分1000円で爪磨き手軽さで敷居を下げる

待つことが苦手な男性のために、サロンの料金体系は10分1000円に設定。商品売り場からサロン内が見渡せるようにして、入りやすい雰囲気をつくった。低料金で、予約なしでもさっと立ち寄れて短時間で終了するため、これまでネイルサロンやエステなどに二の足を踏んでいた層を引き付けた。



◎爪の形を整えて磨き上げる ◎店に向かって左側のエントランス。左手にあるのがクイックサロン

消費者心理をうまく利用

多くの男性は、百貨店の化粧品売り場には気後れするが、ドラッグストアやコンビニで買うことには物足りなさを感じている。そんな消費者が、つい店に入り、奥のクイックサロンまで自然と導かれるようになっている。

- 1 雑貨店かな、と思って、ふらっと店に入る
2 豊富な商品や肌チェックでおしゃれ心が芽生える
3 こんなに気軽なら、爪を磨いてみようかなと思う



の肌の状態を知り、それに合わせて製品を使い分け」といことは、女性にとっては常識でも、ほとんどの男性には知らない。そんな美容の常識を男性に気づかせて、利用を広げる。「自分に合った商品を選びたいと思っしている。購入場所に悩んでいた層は必ずいる。そんなニーズを取り込んでいく(ブラザスタイル)という。」

スキンケア化粧品の棚のすぐ隣には眉のトリミングやネイルケアが、10分1000円で受けられるクイックサロンを置いた。美容に興味を持った男性は、その場ですぐに実践可能、という流れだ。出張で東京に来るたびに利用しているという会社員は「一度眉を整えてもらったら、クセになっちゃった」と話す。

男性も利用できるサロンは、近年増えてきている。しかし、いざ利用するとなると、気が引ける。買利物ついでに、ふらりと、短時間で利用できる仕組みをつくることで敷居を下げたのだ。クイックサロンから出てすぐの位置には、ネイルや眉のケアグッズを並び、自宅でもケアしてみたと思っった人のニーズを最後まで逃さない。

おしゃれのために百貨店や美容サロンを利用するには抵抗があるという男性を、巧みに引き寄せ仕掛けが、わずか84㎡の中にもちめられている。業界関係者は「後はショッピングセンター(SC)内にクオミストのような業態が求められる」と予測する。「美容欲」という男の潜在ニーズを引き出す店が入れれば、SC全体の集客力アップにもつながるに違いない。